

福井県福井市における子ども第三の居場所事業コミュニティモデル  
の運営（2年目）

## 2024年度 活動報告書

報告書作成日 令和7年3月31日

1. 事業目的 生き抜く力をはぐくむ「子ども第三の居場所」を開設・運営する。行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティを作ることで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指す。
2. 事業内容 福井県福井市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
  - (1) 期間：2024年4月1日～2025年3月31日（週3回、放課後から20時まで開所）
  - (2) 場所：福井県福井市
  - (3) 対象：16名（家庭や自身に課題を抱えた小中高生を中心）
  - (4) 内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで、社会的相続を補完する。
3. 実施目標（契約書記載の目標）
  - ① 2025年3月31日までに一日平均利用児童数を15名にし、現在登録している登録世帯を20世帯以上にする。
  - ② 福井市子ども福祉課、児童相談所との連携を強化するとともに、ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会を提供する。
  - ③ 子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に2回以上実施する。
  - ④ 1世帯当たり保護者相談を年3回以上実施する。

#### 4. 目標の達成状況

- ①の達成状況： 2025年3月31日時点の1日の平均利用児童数は9名、登録世帯は16世帯で、目標達成には至らなかった。
- ②の達成状況： ほぼ全員が要支援家庭であるため、福井市こども政策課（申請時（令和5年度まで）は「子ども福祉課」）や児童相談所との連携は強く、個別のケース会議への参加依頼が月2、3回あった。また、地域住民や企業等からボランティアや食料品や日用品等の寄付の申し出が多数あった。さらに、地区の公民館にチラシを配付したり、地区の夏祭りに参加したりすることで地域住民への周知を図り、理解につながった。
- ③の達成状況： 「経験の不足」を解消するような定期的なイベントとして、子ども達にその季節その季節に応じた行事食を楽しんでもらった（年10回）。また、こども・スタッフが一緒になって大掃除を実施し、清潔な住環境維持の習慣に向け支援した。

④の達成状況： 課題のある家庭については頻回に保護者との面談を行っている。安定している家庭は面談回数は少ないが、平均して年3回程度は各家庭の保護者と面談し、日ごろの子育ての相談に乗っている。

## 5. 実績

### (1) 学習支援

子どもたちには、到着したらまずリビングで学習に取り組んでいる。主に学校の宿題だが、分からぬところ難しいところがあれば学習支援スタッフが教え一緒に取り組んでいる。宿題がほとんどない子にはこちらで教材を用意し、受験を控えた中学生などは2階の静かな部屋を活用して学習に取り組むこともある。



### (2) 食事支援

調理スタッフが作ってくれたご飯をスタッフと子ども達に配膳を手伝ってもらい、和気あいあいとした雰囲気で食事している。食事のマナー(椅子の座り方、箸の持ち方)など個人差もあり、定着するように何度も声掛けをすることで自然にできる子が増えてきた。子ども達からもご飯が好評なのでこれからも栄養のある食事を提供していきたい。



### (3) その他の支援

「経験の不足」を解消するような定期的なイベントとして、子ども達にその季節その季節に応じた行事食を楽しんでもらった(年10回)。

また、子ども・スタッフが一緒になって大掃除を実施し、清潔な住環境維持の習慣に向け支援した。

#### (4)関係機関との連携

利用している子どもがほぼ全員が要支援家庭であるため、福井市こども政策課や児童相談所との連携は強く、個別のケース会議への参加依頼が月2、3回あった。

また、地域住民や企業等からボランティアや食料品や日用品等の寄付の申し出が多数あった。さらに、地区の公民館にチラシを配付したり、地区の夏祭りに参加したりすることで地域住民への周知を図り、理解につながった。

### 5. 事業実施により得られた成果

- ・ 地域の要支援家庭の子どもや保護者が安心して利用できる場を定期的に提供できた。
- ・ 利用している子どもたちは、ほぼすべてが経済的困窮や傷病等により保護者に余裕がなく、ネグレクト傾向や学習環境が整っていない、家庭が居場所として十分に機能していない等の課題があるが、「第三の居場所」でのスタッフとの関わりや様々な経験を通して家庭機能が補完され、生活習慣形成や学習意欲の向上につながった。
- ・ 送迎や食事、夜間や土日の活動により、保護者の負担が軽減され、虐待の防止等につながった。
- ・ 季節に応じた行事食の提供により、バランスのよい食生活、食への興味関心の向上、健康的な成長が促進された。

### 6. 活動を通じて明らかになった課題と対応策

- ・ 夕方から夜間の時間帯に定期的に勤務可能なアルバイトスタッフを確保することが困難である。子どもに安定した居場所を提供し、目標の人数を受け入れるためにも、スタッフの確保および質の向上が重要である。
- ・ 地域の大学（福祉・教育系学部）教授を通じて、学生のアルバイト募集をする。また、今後はホームページ等の広報活動を充実し、更なる理解促進に努めたい。
- ・ また、アルバイトへのヒアリング等を通じて業務改善にも努めたい。